



未来パレットだより

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語 Education for Sustainable Development の頭文字をとったものです。北九州地域では「未来パレット」のニックネームの下、教育機関・市民団体・企業・行政などからなるネットワーク組織、北九州ESD協議会が活動しています。

5.6.7月 30年度「まなびと講座」開校しました!

30年度大学間連携、単位認定講座「まなびと講座」を「持続可能な開発目標(SDGs)のための学び(ESD)」と題して、5月27日～7月8日の5回・15講座を開講しました。北九州市立大学・西日本工業大学・九州共立大学・九州歯科大学の4大学の学生と一般、総勢41名が参加し盛り上がりを見せました。当講座の目玉である「ESDの種 聞き書きプロジェクト」では8名のESDに取り組む方々を「ESDの種人」としてお招きし、活動の想いや次世代に繋ぎたい事をお話頂き、ポスターにまとめ発表しました。



5.6月 イベント出展を行いました。

5月12・13日にTOTOリモデルフェア、6月9・10日に環境ミュージアム・未来ホテルデー、6月17日に九電プレイフォレスト2018in山田緑地に出展致しました。会員と学生とで力を合わせ、エコ工作やESDを伝える掲示、声掛けを行いました。どのイベントも多くの来客で賑わいました。



6月 魚町商店街「まちゼミ」とコラボしました。

一般の方をターゲットにSDGsやESDをテーマとした講座を企画・実施し、魚町商店街「まちゼミ」に参加しました。6月3日はSDGs3番【すべての人に健康と福祉を】をテーマに「野菜ソムリエと作るスムージー」・6月13日SDGs6番【安全な水とトイレを世界中に】とSDGs12番【つくる責任つかう責任】をテーマに「ECOキャンドルをつくろう!」を開催致しました。



6月 ミンダナオ子ども図書館(MCL) 松居友さんの講演

6月19日、第11回ESDツキイチの集いとして松居友さんの講演を行いました。内戦が後を絶たないフィリピンのミンダナオ島での現状について講話頂き、その多岐に渡る活動と課題解決からESDの実践の在り方について、学ぶ機会となりました。



9月 おしゃべり工房～ざっくばらんにESD～

第3回おしゃべり工房を7月31日・西門司市民センターにて行いました。回を重ねるごとに参加者が増え、会員と市民センターの館長とを繋いでいます。お互いの意見交換や活動発表を行う中で、多くの気づきのある会へと成長しています。



6月 スタディーツアー2018

「江原道インジェの生物多様性:自然の生態に迫る」をテーマに、大人や大学生の総勢15名で参加しました。村興しに盛んなネッカン村でのブルーベリー摘みや自然学習。北朝鮮との軍事境界線に接しているドゥダヨン自然公園にも訪れ、ソラク山では自然破壊の現状を垣間見ました。「自然保護とはどうあるべきか?」を再考できる旅でした。



北九州市が「SDGs未来都市」に認定!

北九州市は、平成30年4月、経済協力開発機構(OECD)が選ぶアジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されました。また、同年6月には、国の「SDGs未来都市」(国内29都市)、さらには、先導的な「自治体SDGsモデル事業」(10都市)にも選ばれました。

2015年9月に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は地球規模の問題を、産学官民、様々な立場の人達が連携して世界レベルで取り組むものです。

北九州市は、これまで、公害克服の経験から培った市民力やものづくりの技術を活かし、「環境国際協力」や「環境国際ビジネス」、また、地域課題の解決等を目指す「自治会やESDの取組み」を進めてきました。

今回の「自治体SDGsモデル事業」では、洋上風力発電やバイオマス発電など「地域エネルギー」を核とし、経済・社会・環境の三側面における新しい価値を創り出すことを提案しています。こうした挑戦的な取組を推進するためには、それを支える人材育成が不可欠です。本会が、10年以上にわたって培ってきたノウハウを活かして、市民や企業などが学び合う機会を提供していきたいと思ひます。

今後も市民主体を掲げ、私たち一人ひとりの手で、しっかりと「SDGs未来都市」北九州を支えていきましょう!



北九州SDGsの学びスポット



環境産業を学ぶエリア

資源循環型社会の構築を図る「北九州エコタウン事業」は、産官学民の連携した環境ビジネスの展開と国際貢献で国内外から高く評価されています。①若松区の「エコタウンセンター」は、全国のエコタウンの中で一番にスタートしました。隣接する②「洋上風力発電」は国内最大級のプロジェクトです。廃棄物埋め立て地は自然の力で多様な生物を育み③「響灘ビオトープ」となりました。

公害克服を学ぶエリア

北九州市は四大工業都市として、鉄鋼業で日本の高度成長を支えましたが、深刻な公害を生み出しました。1960年代、地域の主婦の働きかけで、産官学民が垣根を超えた連携で公害克服に取り組みました。④戸畑区は「青空が欲しい運動」の発祥の地であり、⑤「環境ミュージアム」では、全国に先駆けた市民による環境改善運動の歴史が学べます。

SDGsの先駆的な取り組みを学ぶ

公害を克服した北九州市の高い市民力は、男女共同参画の取り組みにも発展しています。本会の副代表であった三隅佳子さんが初代所長も務めました⑥男女共同参画センタームーブが誕生しました。この流れは、持続可能な社会形成への取り組みへと発展し⑦北九州ESD協議会が設立されました。地域課題に取り組む市民力は高く評価され、北九州市は、平成29年度(第1回)「ジャパンSDGsアワード」特別賞(パートナーシップ賞)を受賞しました!

国際支援を学ぶ

⑧北九州市役所は技術支援を通じて、九州全域の拠点である⑨JICAと協力して、ニーズに応じた「環境国際協力」や、官民のパートナーシップによる「環境国際ビジネス」で開発途上地域へ貢献しています。また、多くの国から研修生を受け入れています。

海の豊かさを学ぶ

日本最大のカブトガニの生息地で、希少な渡り鳥も飛来する⑩曾根干潟や、化石と水産資源の宝庫⑪藍島や馬島などでは、子どもたちの環境学習が盛んです。かつて生活排水で汚染されていた⑫紫川は美しい川に蘇り、⑬水環境館では紫川に生息する生き物も観察できます。また、タカミヤマリバー環境保護財団は、紫川のアユの放流もおこなっています。

陸の豊かさを学ぶ

北九州は身近に緑豊かな自然があります。鍾乳洞や広谷湿原がある日本三大カルストの⑭平尾台、都心に隣接する⑮山田緑地や⑯皿倉山などは市民の憩いの場所です。また、市民の声で存続となった⑰到津の森公園や、西日本最大級の⑱いのちのたび博物館など、生物や自然史を学ぶ施設も充実しています。市内には多くのホテルを保全する団体がおり、生態を学ぶ⑲⑳北九州ほたる館もあります。

平和を学ぶ

防空壕の跡地である小伊藤山公園^{こいとうやま} ⑳八幡大空襲を伝える慰霊碑などがあり、地元の平野市民センターでは、八幡大空襲の体験者からの「聞き書き」により、平和の大切さを伝えています。また、当初原爆の投下目標であった現在の勝山公園に㉑原爆慰霊碑あり、毎年、8月9日(長崎原爆の日)には、市民による慰霊祭が行われています。



は Izumi Haraga
(C) HARAGA

